

本市の農業の振興

- ① これまで
ササニシキ、ひとめぼれ
ふゆみずたんぼ、環境保全型農業、いきものクラブ
- ② 世界農業遺産への取り組み
本地域農業の歴史的重要性と環境価値の再認識
- ③ これから
自然と共生した農業による高付加価値化
市民、消費者との相互理解による支え合い



次世代の育成が鍵。
農家、行政、NGO、
研究者、子どもたちが
一緒に学びを楽しむ

2つのラムサール条約湿地



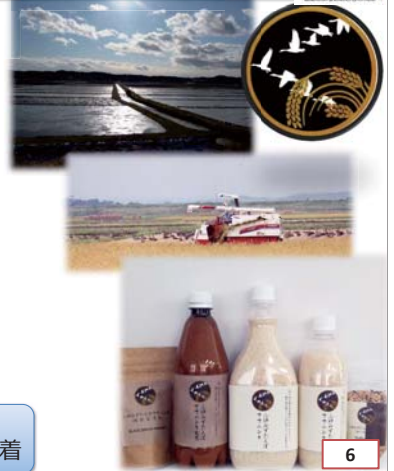
近接した地域に国際的に重要な湿地が2箇所ある

渡り鳥との共生 - ふゆみずたんぼ米

【共生のストーリー】
渡り鳥の楽園「蕪栗沼」
マガン=食害=害鳥
完全な防衛策がないなら活用しよう！
マイナスをプラスに変える
発想の転換

農家による積極的な共生
渡り鳥ねぐらを提供
+
安全・安心
農業化学肥料不使用

ラムサール条約湿地
賢明な利用のモデルとして定着



マガンの飛来地はわずか40カ所、日本に飛来する
80%、18万羽が大崎地域周辺で越冬



化女沼

周辺水田

伊豆沼・内沼、蕪栗沼、化女沼
現在は約18万羽



希少種ヒシクイが飛来

マガンが最大10万羽飛来

次世代育成の取り組み - おおさき生きものクラブ

対象：大崎市在住の小・中学生
内容：生き物が好きな子供たちの
学外活動
(H27：19回/年)

特色：

- プログラムは市内5NPO法人・1団体との協働で作成・実施
- 各NPO法人等の環境教育専門分野やフィールドワークなどのノウハウを共有
- 年齢、やる気に合わせた多様なプログラムの提供
- 学校教育向けシラバス作成



登録会員 168名

生きものを育む農業と地元の伝統技術の融合



みやぎ大崎
ふつふつ共和団

【企業連携】

大崎地域は近世以降、発酵・醸造の文化が発展
自然共生型農業で栽培されたこだわりの米を伝統的な加工技術により流通のチャンネルを多様化

大崎耕土の世界農業遺産認定に向けた取り組み

Globally Important Agricultural Heritage Systems = 世界重要農業遺産システム
社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形作られてきた農業上の土地利用、伝統的な農業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要なシステム（林業及び水産業も含む）を国連食糧農業機関（FAO）が認定



全8認定地域

なぜ世界農業遺産に取り組むのか

大崎地域の基盤である豊かな農業を活かした地域の活性化(課題を克服し、農業システムを継承)

大崎地域の宝(豊かな農業、生物多様性)の再認識と活用

宝を守り、磨き、育む体制(翻訳者)づくり

国内外への発信・共有と地域間の交流の促進

世界農業遺産に向けた取り組みを契機として一層誇りある地域に!

大崎地域の世界的に重要な農業システムとは

大崎耕土の自然条件

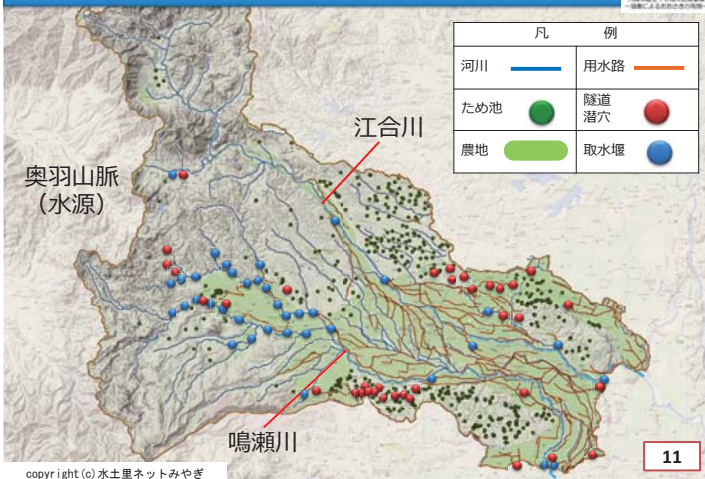
「やませ」による冷害や洪水、渇水

克服の知恵

厳しい自然条件を農業者の巧みな水管理の知恵で克服

- ① 隧道・潜穴や水路による灌漑排水機能
- ② 冷害に強い苗作り、昼間止水等の農法、米の品種改良
- ③ 遊水地を活かしたしなやかな洪水対応 など

大崎耕土の土地利用の特徴



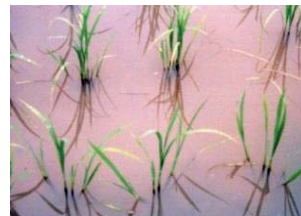
保温折衷苗代



プール育苗



水温を活用して苗保護



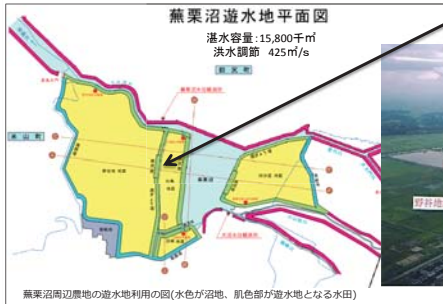
深水による雑草抑制

遊水地によるしなやかな水管理



洪水被害の多い本地域では、自然の力に対して、人為的に一部越流を許容し、水稲が比較的冠水への適用性がある特性を利用するなど、**地域環境を最大限に活かした「しなやかな水管理」**による減災

- 水田への湛水を前提に洪水を導入
- 越流堤の高さにより順序を設けて複数区域に導水
- ポンプ等により洪水後に徐々に排水



越流した蕪栗沼と周辺水田

水田に点在する森「居久根(いぐね)」



伊達藩領内では**農家定住を図るため厚く保護**された

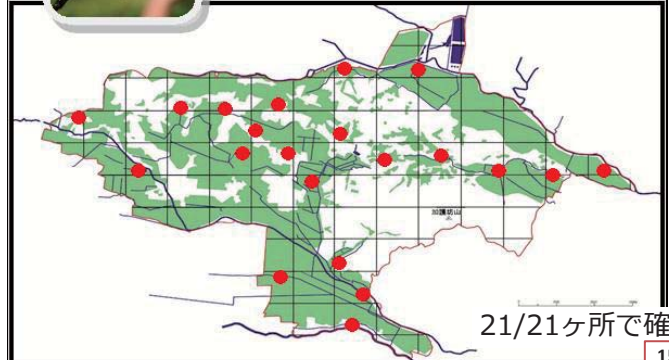
- 防風対策: 奥羽山脈からの強い寒風を防ぐ
- 洪水対策: 流木等から屋敷を守る
- 生活資材: 畑の肥料や農具の材料、薪などの燃料を供給

湿地的な樹木「ハンノキ」など複層的な樹種で構成され、カエルや鳥類などの生息場所となる「水田に点在する森」を形成

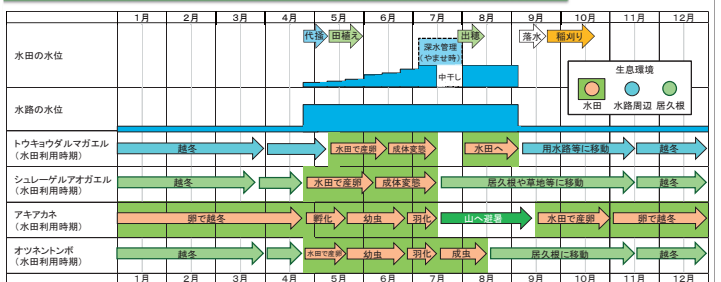


アカトンボの仲間

一般的に赤とんぼと呼ばれる仲間。アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボなどが属している。田尻では赤とんぼの羽化調査を行い、育苗期に使用される農業が赤とんぼの生息に大きく影響していることが分かった。(写真はノシメトンボ)



水田、水路、居久根が提供する生きものの環境



- 居久根や水路、草地など周辺に水田以外の異なる環境があることにより、広大な平地(湿地)での多様なカエルを維持(シレーゲルアオガエル、ニホンアカガエルなど)
- 複数の種類が生息。長期間田んぼで害虫等の生きものを捕食する可能性
- 地上徘徊性、樹上性など、異なる生態のカエルが住むことで害虫の相互防除(他のクモ類とも共鳴)

大崎耕士の土地利用と身近な生きものに 着目したモニタリング手法の構築



【ポイント】

- 希少種の生息地等に特化しない（身近な生きものが大事）
人の暮らしに身近な二次的自然（「里地里山」や「水田」）を対象
- 水田と水路、居久根の土地利用と、水のネットワークに着目し、生物多様性と持続的な農業との関係を明確化
- 市民参加型のモニタリング調査を行い、生物多様性への理解を醸成



17

自然共生型農業の独自ブランド確立「ささ結」



2015年秋。ササニシキ誕生から半世紀を経て。
ササニシキ誕生の地「大崎市」から自然共生型の水田農業をリードする大崎市独自ブランド米としてササニシキ直系の新品種がデビュー

【特徴】

母はササニシキ
父はひとめぼれ
おいしさと強さの結晶です。

母：ササニシキ
父：ひとめぼれ



粘りひかえめ。
あっさりうまい、
さらさら系。

和食を愛する世界の人びとを
うならせる味わい。

豊かな自然環境を活かした安全安心の品質管理。



21

生きものを育む水のネットワークの維持



18

自然との共生を価値化した農業の振興



22

都市住民・NPOと一体となった自然共生農業の推進



19

鳴子の米プロジェクト（ゆきむすび）

- 都市住民との交流を通して「作る人」と「食べる人」の互いの顔の見える関係の構築
- 再生産可能な価格で買い支えることで、消費者と農家、地域が支え合い



20